



株主の皆様へ

第52期中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

NANKAI PLYWOOD



南海プライウッド株式会社

NANKAI PLYWOOD

企業理念

美しさに富み、心やすらぐ
快適な住環境をつくる「木」の再現を
求めつづけます。

会社概要

(平成16年9月30日現在)

商号 南海プライウッド株式会社
本社 〒760-0067 香川県高松市松福町一丁目15番10号
電話 087(825)3615(代表)
Eメール np@nankaiplywood.co.jp
http://www.nankaiplywood.co.jp
設立 昭和30年4月16日
資本金 21億2100万円
従業員数 349名
事業内容 建築内装材の製造・販売
事業所 志度工場
〒769-2101 香川県さぬき市志度5388番地
物流センター
〒769-2314 香川県さぬき市造田乙井170番地1
朝日新町保税倉庫
〒760-0064 香川県高松市朝日新町28番1号

連結子会社

社名	資本金	出資比率	
PT.NANKAI INDONESIA	250万USDドル	95%	木材関連事業
SENTUHAMONI SDN.BHD.	25万 ^{スレーシアン} リンギット	100%	
南海システム作業株式会社	1,000万円	100%	
南海港運株式会社	4,100万円	100%	
ナンリツ株式会社	4,500万円	70%	電線関連事業等

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、第52期中間事業報告書(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当中間期のわが国経済は、経済指標により景気の堅調な回復基調が見えてきましたが、地方経済や中小企業には厳しい状況が続きました。

住宅業界におきましては、新設住宅着工戸数の増加により底堅く推移いたしました。

このような状況下、当社におきましては、海外工場との連携強化による製造部門の効率化を図りコストダウンに取り組みましたが、南洋材原木の予想以上の値上がりにより合板ならびに製材品等の原材料価格が高騰しましたことから一部商品価格への転嫁を行わざるをえませんでした。この原材料高騰要因は、インドネシア政府の原木伐採規制ならびに違法伐採取締り強化による原木の絶対量不足が顕著となった結果であります。

景気は、順調な回復傾向にありますが原油の高騰などの海外情勢の変化により停滞する可能性もありますので、世界経済の動向に留意していく必要があります。

当社といたしましては、南洋材の枯渇問題に対応することにより安定した価格で原材料の供給を得るため、植林事業への出資ならびに植林材加工技術の検討に入り、植林材使用比率の拡大を図っていきます。

株主の皆様におかれましては、何卒ご支援ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成16年12月



代表取締役社長

丸山 徹

役員

(平成16年9月30日現在)

代表取締役社長	丸山 徹	取締役兼執行役員	濱野 勝
代表取締役専務	山口 時弘	取締役兼執行役員	藤村 岳志
常務取締役	嶋内 幸秀	取締役兼執行役員	正箱 孝史
常務取締役	田井 雅士	取締役兼執行役員	丸山 宏
常務取締役	植田 幹夫	常勤監査役	高松 幸雄
取締役相談役	丸山 修	監査役	水野 正
取締役兼執行役員	立花 俊憲	監査役	大川 俊徳
取締役兼執行役員	小紅 正晴	監査役	岩部 達雄

当中間期の概況

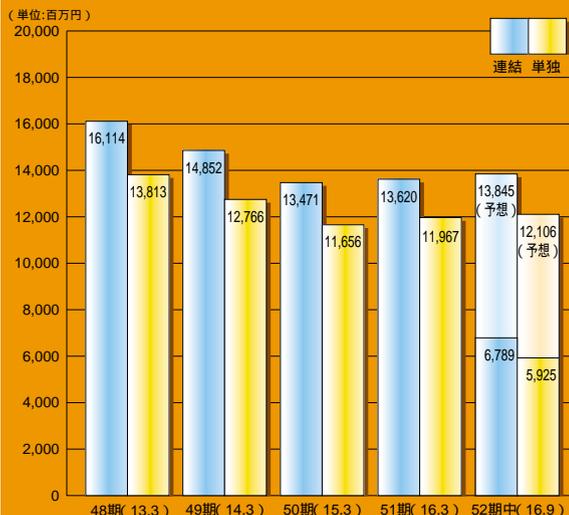
当中間期のわが国経済は、企業業績の改善から設備投資は増加し、個人消費も緩やかに増加してきました。厳しさが残る雇用情勢についても、完全失業率が高水準ながらも低下傾向で推移し改善が見られ初めました。

こうしたなかで、当社の連結業績に影響を及ぼす新設住宅着工戸数は、住宅ローン減税の変更前駆け込み需要等により増加し前年同期に比べ2.6%増の618千戸となりました。

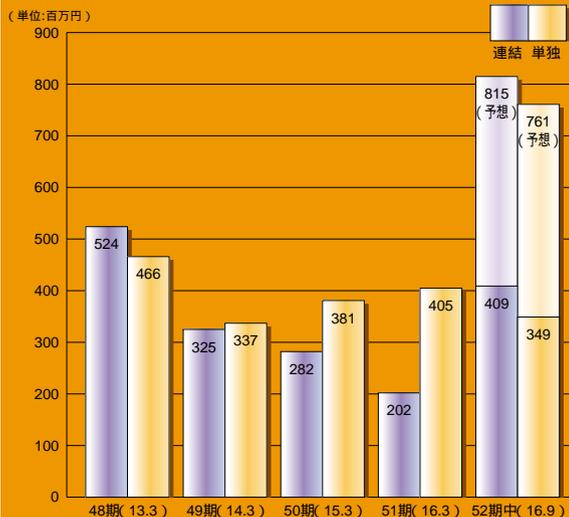
このような状況下、木材関連事業、電線関連事業等ともに収益目標達成に向け懸命に努力いたしました。木材関連事業においては、輸入原材料価格の高騰により収益の確保が難しい状況となりましたが、製造部門の効率化と一部商品価格への転嫁を行うことにより改善を図りました。一方、電線関連事業等につきましては、設備投資の増加が地方まで及ばず、いまだ厳しい状態で推移しておりますが、地域密着型の積極的な営業活動を展開することにより収益の確保に努めました。

以上の結果、連結業績は、売上高67億89百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益3億48百万円（前年同期営業損失13百万円）、経常利益4億9百万円（前年同期経常利益52百万円）、中間純利益2億65百万円（同中間純利益9百万円）となりました。

売上高の推移



経常利益の推移



通期の見通し

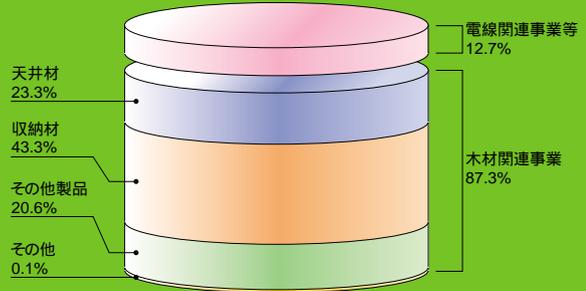
わが国経済は、企業業績の改善による順調な回復傾向を示しておりますが、原油価格高騰の影響等による景気減速が予想されます。

このような状況により、新設住宅着工戸数の動向も減少の可能性を含んでおりますが、おおむね前年度並みに推移すると思われま

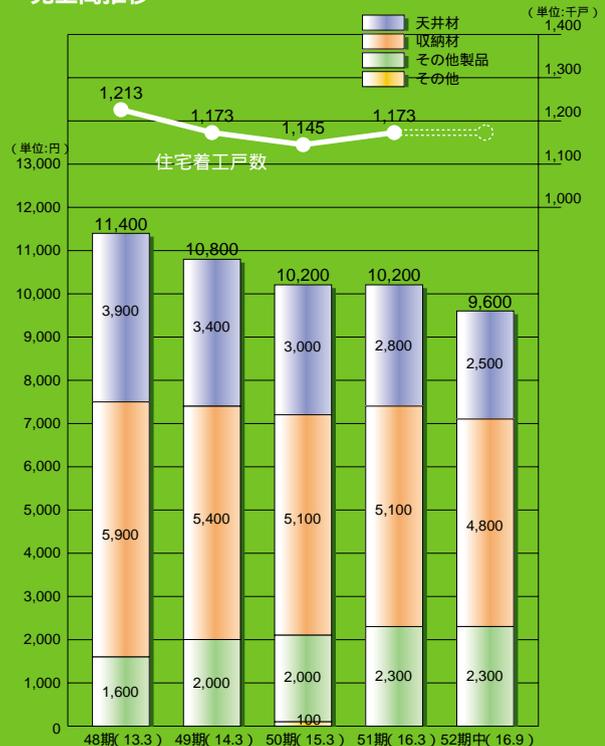
す。当社グループといたしましては、引き続き経営基盤の強化に取り組み、グループの業績拡大を図っていく所存であります。木材関連事業においては、海外子会社と国内工場の連携強化による効率的な業務推進を図るとともに品質管理体制の見直しを行い、顧客満足度の高い建築内装材の生産を行ってまいります。また、アルミ製オープン階段等の新商品の拡販に傾注し売上の増加を目指します。一方、電線関連事業等につきましては、地方における設備投資の回復に期待し引き続き積極的な営業活動を展開することにより、収益の計上できる企業に改善してまいります。

通期の連結業績は、売上高138億45百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益6億80百万円（同255.4%増）、経常利益8億15百万円（同301.8%増）、当期純利益4億85百万円（前年同期当期純損失21百万円）になるものと予想しております。

セグメント別の連結売上高構成



新設住宅着工一戸当たりの木材関連事業の売上高推移



注) 売上高は、外部顧客に対する売上高であります。

新商品

アルミ製オープン階段が好評です。

ルミスト
lumist

アルミがつかぬくフォルムの美しさとムク材踏板の上質な素材感が絶妙なバランスで存在します

流行にマッチするデザインの美しさ、設置場所を選ばない設計、ユニット化により実現した高い施工性。お施主様の声と、現場からの声を大切に開発したからこそ、このようなパフォーマンスを可能にしました。

新たな見積、生産体制も整い、「アルミ製オープン階段ルミスト」いよいよ本格的に始動します。

アルミ + stairs = lumist

例えばこんなタイプもあります・・・



アルミ階段 U型タイプ

階段スペースをまとめ、
尚かつ開放感を損なわない仕様。
階下を坪庭風に仕上げ、
吹き抜けの空間の上に天窓を配するなど、現代的なモダン建築にも最適です。



混合階段 L型タイプ

木質階段の一部をアルミ階段に換え広い空間を確保する仕様。
予想以上に視界が広がり、上階との一体感が生まれます。たとえば居室内にいても違和感を感じません。

手摺と踏板

シンプル&シャープなアルミのデザインに天然木を融合。素材から発せられる高級感とぬくもりがプラスされ、トータルバランスのとれたオブジェのような出で立ちです。



植林材

再生可能な資源を 原材料に使用します。



種から育てる



森をつくる



そして資源となる

種からの育成が可能な樹種(ファルカタ)は森林の再生に有効です。

その軽くてねばりのある材質は当社の製品への加工に適しており、収納材を中心にこの樹種への切り替えを行っております。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部

科目	期別	当中間連結会計年度 (平成16年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)
流動資産		8,451	8,444
現金及び預金		862	976
受取手形及び売掛金		3,216	2,583
棚卸資産		3,172	2,910
デリバティブ債権		137	141
繰延ヘッジ損失		756	1,559
その他の流動資産		324	287
貸倒引当金		18	14
固定資産		12,464	12,981
有形固定資産		9,277	9,604
建物及び構築物		2,674	2,773
機械装置及び運搬具		1,766	2,000
工具器具備品		81	92
土地		4,741	4,738
建設仮勘定		13	
無形固定資産		273	311
投資その他の資産		2,914	3,065
投資有価証券		711	799
長期貸付金		10	12
差入保証金		1,867	1,866
その他の投資		351	424
貸倒引当金		26	38
資産合計		20,916	21,425

負債の部

科目	期別	当中間連結会計年度 (平成16年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)
流動負債		4,769	5,247
支払手形及び買掛金		1,320	1,265
短期借入金		1,596	1,271
未払金		315	383
未払法人税等		164	227
未払消費税等		93	51
賞与引当金		112	111
工場稼働停止損失引当金		199	215
デリバティブ債務		893	1,701
繰越ヘッジ利益			
その他の流動負債		72	21
固定負債		525	603
長期借入金		42	45
退職給付引当金		218	234
役員退職慰労引当金		61	61
その他の固定負債		203	261
負債合計		5,294	5,850

少数株主持分

少数株主持分	12	7
--------	----	---

資本の部

資本金	2,121	2,121
資本剰余金	1,865	1,865
利益剰余金	11,552	11,406
その他有価証券評価差額金	131	184
為替換算調整勘定	4	44
自己株式	56	55
資本合計	15,609	15,567
負債、少数株主持分及び資本合計	20,916	21,425

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間連結会計年度 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前中間連結会計年度 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
売上高		6 789	6 553
売上原価		4 748	4 829
売上総利益		2 041	1 723
販売費及び一般管理費		1 693	1 737
営業利益(損失)		348	13
営業外収益		79	87
営業外費用		18	22
経常利益		409	52
特別利益		36	8
特別損失		44	12
税金等調整前中間純利益		401	48
法人税、住民税及び事業税		145	104
法人税等調整額		13	61
少数株主利益(損失)		4	4
中間純利益		265	9

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間連結会計年度 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前中間連結会計年度 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー		319	554
投資活動による キャッシュ・フロー		6	310
財務活動による キャッシュ・フロー		202	209
現金及び現金同等物に 係る換算差額		12	20
現金及び現金同等物の 増減額		111	675
現金及び現金同等物の 期首残高		968	1 422
現金及び現金同等物の 中間期末残高		856	746

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間連結会計年度 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前連結会計年度 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
資本剰余金期首残高		1 865	1 865
資本剰余金期末残高		1 865	1 865
利益剰余金期首残高		11 406	11 528
利益剰余金減少高		119	100
配当金		119	100
役員賞与			
中間(当期)純利益(損失)		265	21
利益剰余金中間期末(期末)残高		11 552	11 406

株主資本比率

74.6%

株主資本中間純利益率

1.7%

1株当たり株主資本

1,572円

個別財務諸表

貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

資産の部

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)
流動資産		7,364	7,501
現金・預金		286	404
受取手形・売掛金		2,542	1,815
棚卸資産		2,578	2,492
その他		1,955	2,789
固定資産		13,129	13,480
有形固定資産		8,178	8,453
建物		2,283	2,362
機械装置		1,504	1,698
土地・その他		4,390	4,392
無形固定資産		180	208
投資その他の資産		4,770	4,818
投資有価証券		600	689
長期貸付金		1,929	1,829
その他		2,239	2,298
資産合計		20,493	20,982

負債の部

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)
流動負債		4,239	4,689
支払手形		391	374
買掛金		479	375
短期借入金		1,590	1,260
未払金		265	314
その他		1,513	2,365
固定負債		453	532
長期借入金		-	-
その他		453	532
負債合計		4,693	5,221

資本の部

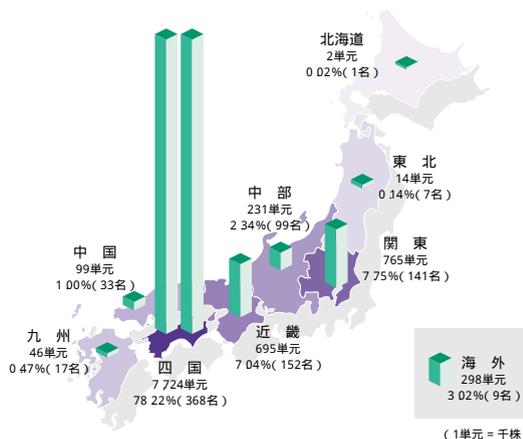
資本金	2,121	2,121
資本剰余金	1,865	1,865
利益剰余金	11,745	11,650
評価差額金	124	177
自己株式	56	55
資本合計	15,800	15,760
負債・資本合計	20,493	20,982

損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
営業収益		5,925	5,813
営業費用		5,686	5,763
営業利益		238	50
営業外収益		126	101
営業外費用		16	55
経常利益		349	96
特別利益		36	6
特別損失		43	5
税引前中間純利益		341	96
法人税、住民税及び事業税		141	102
法人税等調整額		13	62
中間純利益		213	56
前期繰越利益		65	53
中間未処分利益		278	110

地域別分布状況



株式の状況

(平成16年9月30日現在)

総数

会社が発行する株式の総数……………20 000 000株
 ただし、株式の消却が行われた場合は、これに相当する株式数を減ずる。

発行済株式総数……………10 095 800株

株主総数……………901名(前期末比19名減)

大株主

株主名	持株数	議決権比率
南海興産株式会社	2 943千株	30.33%
財団法人南海育英会	1 588	16.37
株式会社百十四銀行	467	4.81
丸山修	344	3.55
株式会社愛媛銀行	243	2.50
大阪証券金融株式会社	177	1.82
南海プライウッド従業員持株会	165	1.70
北中照夫	130	1.34
株式会社百十四ディーシーカード	128	1.32

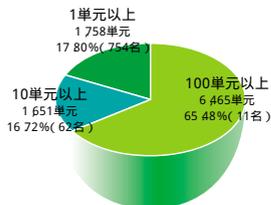
自己株式の取得・保有

保有自己株式数……………170千株

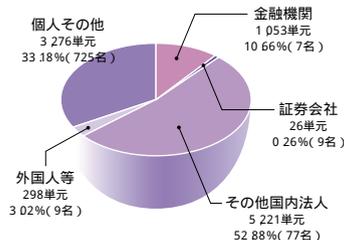
第50回定時株主総会決議による取得……………150千株

単元未満株の買取による取得……………20千株

所有単元数別分布状況



所有者別分布状況



株主メモ

決算期

3月31日

定時株主総会

6月下旬

名義書換代理人

株式会社たいこう証券ビジネス

名義書換取扱場所

〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号

株式会社たいこう証券ビジネス 本社証券代行部

株式事務各種問合せ

・フリーコール電話番号 0120-255-100

株式関係手続用紙請求先

・フリーコール電話番号 0120-351-465

インターネットホームページ <http://www.daiko-sb.co.jp>

同取次所

株式会社たいこう証券ビジネス 各支社

上場証券取引所

株式会社大阪証券取引所 市場第二部

(証券コード 7887)

公告の方法

日本経済新聞に掲載いたします。

ただし、商法特例法第16条第3項に定める

貸借対照表及び損益計算書にかかる情報は、

<http://www.nankaiplywood.co.jp/kai/kej/k-top.htm>

において提供しております。



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています